

大阪の夕方5～9時を変える5分間コミュニティ構築による子育て世代サポート ～多世代が協力するスモールコミュニティモデル～

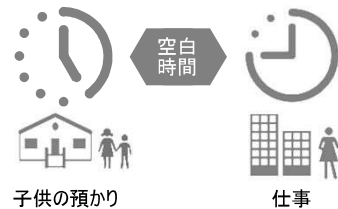
はじめに

少子高齢化が進む中、日本経済の成長を持続していくために潜在労働力である女性の力を最大限発揮することが求められている。男女共同参画社会における子育てと仕事の両立は重要な課題であり、行政も積極的に取り組んでいるものの、待機児童対策が主となっており、小1の壁と呼ばれる就労と預かり時間のギャップの問題は解決されていない。

我々は大阪の地域コミュニティの潜在力に着目し、身近な住民の顔が見える小さな「5分間コミュニティ」の中で「子育て世代の女性」と「子供を預かる新しい場」を繋げることにより、「午後5時から午後9時の子育てをサポートする」仕組みを構築できると考えた。

現状認識

- 働きたいのに働けない子育て世代の女性が仕事を辞める理由として「終業時間まで預かってもらえる場所の不足」「近くにサポートしてくれる親類の不在」が多い
- 子どもを預けられる環境が整えば働きたい人は多い
- 行政も子育て支援対策に取り組んでおり、待機児童問題は解消されつつある
- 親の帰宅時間と子どもを預けられる時間のギャップにより午後5時から午後9時に子育ての空白時間が生じており、いわゆる「小1の壁」の問題として、行政も「いきいき」「学童保育」「ファミリー・サポート・センター事業」などの対策に取り組んでいるが、まだ解決されていない



取り組みのポイント

子育て世代のニーズ

- いつでも誰でも預けられること
- 一定水準の保育と教育が確保されていること
- 安心感があること
- 家事負担を軽減できること

既存の仕組みの長所

- 学童 十分な指導員による保育、生活の場としての環境
- いきいき 全児童対象の預けやすさ
- ファミリー・サポート・事業 サービス時間の制限無し

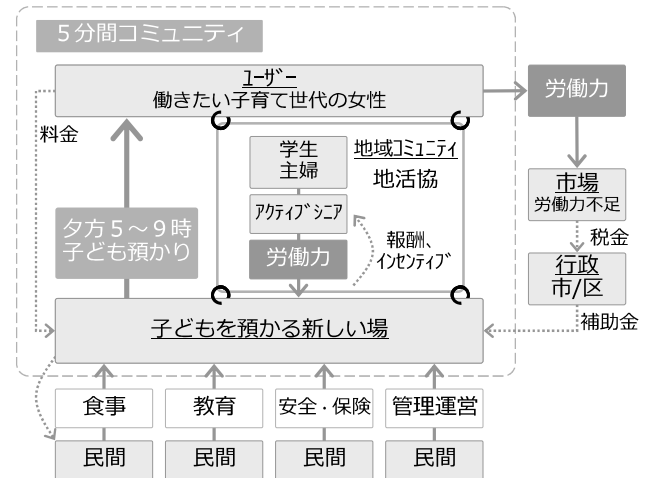
行政負担を増やさずに、既存の仕組みの長所を活かしながら、上記のニーズに応える行政サービスを検討する

提言

基本的なモデル

- 地域コミュニティの潜在力を活かし、持続可能な仕組みとする
- 身近な住民の顔が見える一番小さな地域コミュニティの中で「子育て世代の女性」と「子どもを預かる新しい場」を繋げる

夕方5～9時の子育てをサポートする仕組み



- いつでも誰でも預けられる
 - ・ 午後9時まで開設する
 - ・ 登録した親は誰でも預けることができる
- 一定水準の保育と教育を確保する
 - ・ 学童保育以上のスタッフ数を確保する
 - ・ 宿題を見るなど、自主学習の支援をする
- 安心感がある
 - ・ スタッフの資格を定める
 - ・ 地域の活動拠点(小学校、公民館など)を預かる場所にする
- 家事負担を軽減する
 - ・ 子育て世代のニーズである夕食などの付加的なサービスを提供する

事業継続性

単位: [億円/年]		現在		新しい仕組み		利用者※ 6 [万人] 登録料 1,000 [円/人・月] 延長利用料 7,500 [円/人・月] ※いきいきと同じ
収入	利用者	0	33	13	46	
	行政	33	33	33	46	
支出		33	46	33	46	